建築研究所ニュース

令和７年 12 月３日

第１回シンポジウム「ここちよさを伝える新しいものさしを考えよう」の開催
～室内環境の良さを伝える指標作成に向けた意見交換会～

建築研究所環境研究グループは、住宅・小規模非住宅建築物の室内環境を分かりやすく評価する新たな指標の検討を目的とした第１回シンポジウム「ここちよさを伝える新しいものさしを考えよう」をオンラインにて開催します。

令和７年４月より省エネ基準適合が全面義務化され、エネルギー性能に関する指標として、一次エネルギー消費量やBEI、外皮性能としてはU_A値やη_A値、表示制度としてはZEHやBELSなど、様々な性能指標が整備されてきました。一方、温熱環境、光・視環境といった室内環境の良さや、土地や相隣条件が与える影響については、依然として住まい手にとって分かりやすい評価軸が不足しています。

本シンポジウムでは、室内環境の研究や住宅設計の第一線で活躍する専門家を招き、今、現場で求められている「ここちよさの指標」とは何か、良質な室内環境をどのように分かりやすく伝えるかについて、講演およびパネルディスカッションを通じて議論を深めます。

皆様の考える「ここちよさの指標」について、ぜひご意見をお寄せください。

１．開催の背景

当研究所では令和７年度より、研究課題「相隣環境を考慮した良質な室内環境の設計に資する評価指標と計測手法の開発（令和７～９年度、研究代表：上席研究員 三浦尚志)」を開始し、住宅・小規模非住宅建築物における室内環境の良さを生活者が理解しやすい形で示す評価指標の構築を目指しています。本シンポジウムはその第一歩として、専門家・実務者・研究者が横断的に意見交換し、「誰もが使える・分かる室内環境の新しいものさし」の検討を進める場として開催します。

２．開催概要

日　時：令和７年 12 月 22 日（月）17 時 00 分～19 時 00 分（16 時 45 分開場予定）
会　場：オンライン（ZOOM ウェビナー）
参加費：無料
主　催：国立研究開発法人 建築研究所 環境研究グループ
申込方法：以下 URL または QR コードより事前にお申込みください。当日ご参加いただけない方には、録画の限定配信を予定しています。
https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_vO6MyqtQQs6fo5DqI_As-g

３．プログラム（予定）

17:00～17:15 開会・主旨説明　三浦尚志（国立研究開発法人 建築研究所）

「本シンポジウム開催の狙いと参加者への室内環境指標に対するご意見のお願い」

17:15～17:35 **伊香賀俊治氏（一般財団法人 住宅・建築SDGs 推進センター）**

「子供から高齢者の健康を支える温熱・空気環境」

居間、寝室、脱衣所等の室内温湿度、足元室温が子供から高齢者の睡眠、活動量、血圧、疾病症状、生産性に及ぼす影響に関する研究成果に基づき、望ましい温熱・空気環境指標について考える。

17:35～17:55 **三澤文子氏（有限会社 エムズ建築設計事務所）**

「住まいの心地よさをどうつくるのか。～ 空間をつくる材料の重要性」

「空間は材料と材料の間にある。」といったライトの言葉どおり、材料を見る、材料の匂いを嗅ぐ、材料を触るという諸行為からも材料が住む人に及ぼす影響は大きい。つまり材料の心地よさが住まいの心地よさに直結するのではないか。自然素材が人間の感覚に影響をあたえること、さらに内部と外部をつなぐ窓から見える景色の質が心地よさ（精神の安定）につながることを事例を通して伝えたい。

17:55～18:15 **佐藤欣裕氏（有限会社 もるくす建築社）**

「包容力のある建築環境を目指して」

窮屈な建築に成り兼ねないと思います。複雑さをなるべく排除したシンプルな躯体構成はとても効果的です。また厳しい気候であるからこそ自然共生を今一度見直すべきだと考えています。

18:15～19:00 パネルディスカッション

登壇者各位・三浦尚志（進行）

４．今後の展開

本研究課題では、今回のシンポジウムを皮切りに、複数回の意見交換会を予定しています。シンポジウムで寄せられたご意見は、今後の研究および指標の具体化の重要な参考情報として活用していきます。

【お問い合わせ先】
国立研究開発法人　建築研究所
（内容について）
所属　　環境研究グループ
氏名　　三浦尚志・熊倉永子
電話　029-864-6670（直通）
E-mail e-kumakura@kenken.go.jp